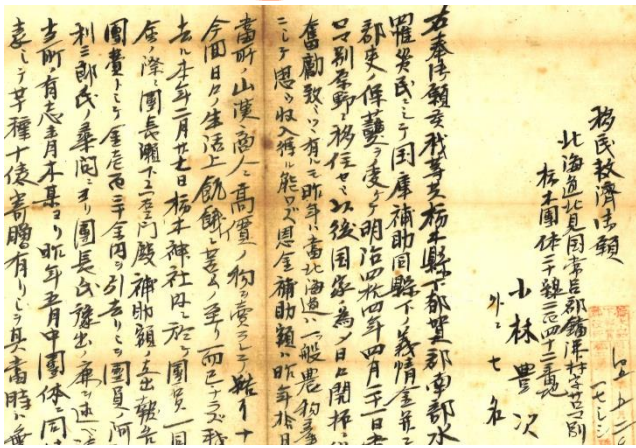
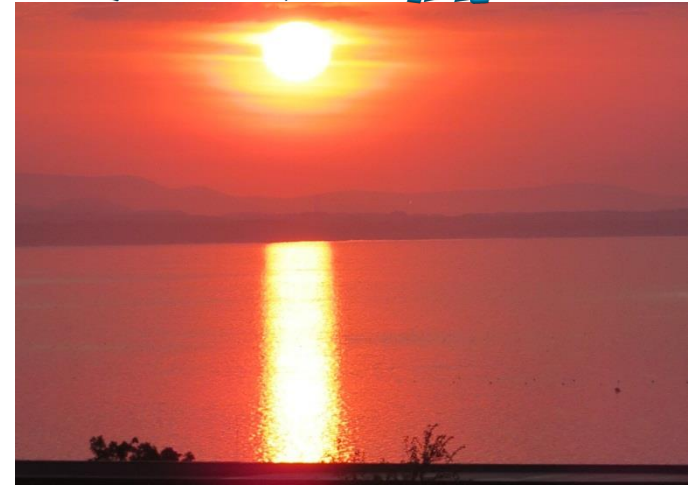


サロマの風



佐呂間町内 24 の字名の一つに「栃木」があります。北海道は本州からの移民によって開拓された地域が多く、本州の地名が残っていることは不思議ではありませんが、この「栃木」は他の地域にはない特別な歴史をもっています。

明治 44 年 4 月に栃木県から開拓移民団としてサロマベツ原野にやってきた人々の中には、日本の公害第一号といわれている足尾銅山鉍毒流出問題に端を発して、村を追われるようにやってきた人々が含まれていたのです。

「南に向いた肥沃な土地」と県庁の役人から説明を受けてやってきた場所は、オホーツク海からの北風をまともに受ける極寒の大地。開拓の鉞に汗を流しながらも「俺達はだまされた」の思いが強く、長年にわたる帰郷運動が地域の歴史に重なりました。

他県からの入植者も多く、「栃木の名前なんか変えてしまえ」と揺れ動いた時代を経て、今では酪農郷として繁栄している「栃木」は、東日本大震災以降の日本にあって、その存在がにわかに注目されています。

そんな折、入植二年目の明治 45 年に栃木県庁に救済を求めた文書や、郡役所からの書類返戻書など、100 年以上前の書類が佐呂間町に寄贈されました。

開拓の苦悩の歴史を確証する貴重な文書は、複製にして佐呂間町町民センターで公開しています。

※資料の説明やご質問などは企画財政課までお問い合わせください。



「佐呂間町交通公園」は昭和 62 年 3 月に廃止となった国鉄湧網線の歴史を地域に残し、後世に語り継いでいくことを目的として、平成元年に開設しました。

しかし、展示している鉄道車両などは経年とともに錆など老朽化が目立ち始め、整備から四半世紀経った平成 26 年に展示物すべての塗装改修工事を実施して、今はピカピカに光る車両が蘇っています。

主な展示車両は「D51565 型蒸気機関車」「DE10 型ディーゼル機関車」「スユニ 50517 型荷便車」「ヨ 8000 型貨車」がそれぞれ 1 両で、大正 4 年生製造の 9600 型蒸気機関車の「動輪一対」も展示しています。

交通公園には噴水や多目的広場なども整備されていて、町民の憩いの場として親しまれています。

国鉄湧網線は大正時代から建設請願運動が活発に繰り広げられましたが、時代の波に翻弄された悲運の鉄道でした。



「国鉄湧網線の歴史と交通公園」は佐呂間町ホームページで公開しています。

「佐呂間町の紹介」→
「佐呂間町の沿革・歴史」からご覧ください。



佐呂間町役場企画財政課

〒093-0592

北海道常呂郡佐呂間町永代町 3 番地 1

Tel 01587-2-1214 Fax 01587-2-3368

長かった冬が終わり、待ちに待った春がやってきました。希望に満ちた 4 月の佐呂間は、残雪の残る畑に春風が吹き込み一足早く顔を出した秋まき小麦の緑色がまぶしく存在感を高めています。

あと一、二週間ほどすると、ビール麦の種まきを皮切りに、ビニールハウスの中で生長しているビートの苗の畑移植など春の農作業が一気に加速して、大型トラクターの重低音が畑じゅうに響き渡ります。

今冬は二年連続で完全結氷しなかったものの、そのほとんどが白い氷原と化したサロマ湖は、やっと青々とした湖面が顔を出し、4 月 11 日の漁船の船下ろしでいよいよ海明けを迎えます。

サロマ湖での春最初の作業は「石あげ」。冬の間、湖が凍ってしまうためにロープに石をつけて深く沈めている養殖ホタテを浅い場所まで浮かせる作業です。

サロマ湖の港でも漁船の軽快なエンジン音が聞こえ始めたら佐呂間の春も本番、エゾヤマザクラのつぼみも一気に膨らみ始めます。

そして 5 月中旬、オホーツク海へホタテ稚貝の放流作業が始まる頃には陽が長くなり、夕日に映える夏のサロマ湖に変わります。

サロマ湖の夕日は 5 月下旬から 7 月までがお勧め。ロマンチックな夕日の紅に染められてみませんか。

We ♥ Saroma

佐呂間ダイアリー

◆1月

- 10日 佐呂間町成人式（出席者 50名）
- 19日～ 暴風雪により町内全学校三日連続臨時休校

◆2月

- 8日 若佐 坂口文江さん百寿祝贈呈
- 10日 川西 山下シヅさん百寿祝贈呈
- 19日 寿大学第2回学園祭
- 21日 第17回かまくら冬まつり
サイエンスキャラバン

◆3月

- 1日 北海道佐呂間高校第52回卒業証書授与式
（卒業生 34名）
- 6日 全町ミニバレー大会
- 15日 佐呂間中学校卒業式（45名）
- 18日 佐呂間小学校卒業式（31名）
- 24日 若佐小学校(6名)・浜佐呂間小学校卒業式(4名)

佐呂間町の世帯数と人口（平成28年3月31日）

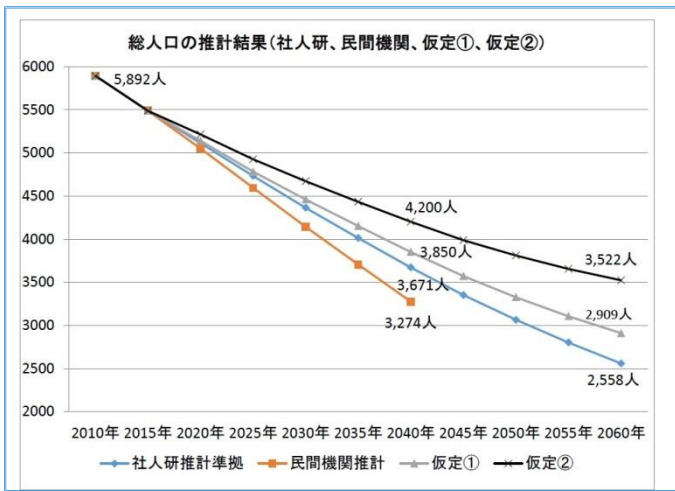
世帯数 2,548 世帯 人口 5,404 人
 佐呂間町サポーターズ倶楽部人口 898 人
 合計 6,302 人
 [前号人口比較 35人増加]

町民の出生と死亡 さろサポ新規登録

27.12月	出生 4人	死亡 9人	19人
28.1月	出生 4人	死亡 11人	9人
2月	出生 0人	死亡 6人	44人
3月	出生 1人	死亡 6人	73人

住所変更などサポーターズ倶楽部登録情報に変更が生じた場合は「サポーターズ倶楽部HP」下段にある「変更届」様式によりご連絡ください。

★サポーターの参加は10名まで[申込期限5月31日]
 佐呂間町役場企画財政課「電話」による先着順
 電話 01587-2-1214 平日 8:30～17:15 まで受付



5,364人 平成27年国勢調査速報値による佐呂間町の総人口は、5年前の平成22年よりも528人(9.0%)減少しました。この減少は北海道内町村の平均減少率6.7%、平成22年の佐呂間町減少率7.8%をともに上回る高い減少率です。

この要因は平成23年4月に佐呂間厚生病院が入院ベッド無床のクリニックに移行したことにより入院患者の町外施設への転院や職員の減少、更には、町内医療体制の後退により高齢者世帯が都市部へ転出する傾向が見受けられたことによるものと分析しています。

今年3月に完成した地域創生総合戦略計画(平成27～32年度)でも将来人口の分析を行っていますが、今後出生率が上昇すると仮定した佐呂間町独自の推計(仮定①・②)でも、人口の減少が続くのは明らかです。

総合戦略計画の中では、佐呂間町サポーターズ倶楽部事業を戦略の大きな柱と位置づけて、人のきずなでサロマを元気にする取り組みを進めていきます。

※佐呂間町HPから「佐呂間町地域創生総合戦略計画書」をご覧ください。

サロマ応援イベント

■佐呂間町植樹祭【雨天の場合は栃木の歴史資料説明会】

平成28年6月上旬の平日(午前中) 参加料無料
 お昼に「ホタテ稚貝みそ汁」を食べて終了です
 日程は5月上旬に佐呂間町ホームページでお知らせします
 電話・メールでのお問い合わせにもお答えします



2月21日、第17回かまくら雪まつりが町民センター駐車場を会場に開催されました。折りしも当日は朝から風雪に見舞われましたが、降りしきる雪など関係なしにサロマの子ども達は雪山すべり台のチューブすべりに歓声を上げていました。



北海道佐呂間高等学校は昭和37年の全日制課新設時に一学年3学級の認可を受けて開校しました。しかし、過疎少子化の影響により入学者が減少して平成3年4月に2間口となり、平成26年4月には1間口40人の定員に減少しています。そして、平成27年4月からは北海道北見柏陽高等学校をセンター校とする「地域キャンパス校」となり、センター校からの出張授業や遠隔授業などによって教育環境の維持充実を図っています。

今年3月1日の卒業生徒数は34名。その内、就職等で佐呂間町内に残る生徒は11名で、残りの23名が進学等により佐呂間町を旅立っていきました。

いつの日かまた、佐呂間町の将来を担う人材となってふるさとに戻ってくる日を町民皆が待ち望んでいます。

会員特典⑩「ルートイングランティアサロマ湖日帰り入浴料金300円割引」を『佐呂間町内ガソリンスタンド給油でウォッシャー液贈呈』に変更しました。同封の「協賛店ガイド」裏面をご覧ください。